

JANOG43 Meeting 参加レポート

北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 セキュリティ・ネットワーク領域
博士前期課程 1年
廣中 颯

1. JANOG Meeting に参加した全般的な感想

今回 JANOG Meeting に初めて参加した。全体を通して、JANOG というコミュニティの規模の大きさを実感するとともに、様々な視点からの技術情報を得ることができ、非常に有意義な体験だった。想像していたより技術的に高度な議論が多く、前提知識の不足を感じるが多かったが、次回以降のミーティングにも機会があればぜひ参加したい。

2. JANOG Meeting に参加して得たこと・今後やりたいことなど

私は JANOG43 に参加するにあたって、今回のテーマ「Zero」から、大きく二つの目的を持っていた。一つは、ネットワーク全般、特にネットワークのオペレーションに関する幅広い知見を得ること、もう一つは、研究計画の提出が近いことから、ネットワークに関わる最新的话题に触れ、研究テーマの検討および洗練を図ることである。特に、セグメントルーティングやコンテナ関連のセッションに興味を持っていた。今回の参加では、当初の目的以外にも運用作業の自動化から生じるトラブル事例や、ただ多言語対応したコンテンツを用意するだけでなく、現地からアクセスが実際に行えるかまで確認すべきであることなど、技術を学ぶだけでは得られない知見も得た。インターネットは技術だけでなく政治的な要素にも左右されるが、必ずしも決まりが明文化されているわけではない点に課題がある。

3. JANOG Meeting で印象に残ったプログラムとその感想

三日間を通じて印象に残ったセッションはネットワーク設計に関わるセッションである。「OCN ネットワークアーキテクチャの変遷と将来」および「LINE のネットワークをゼロから再設計した話」のセッションではサービスの特性に応じた要求を満たし、かつ大規模なネットワークの設計について多くの学びを得た。また「5G時代の到来と新しい技術・続く運用」の後半では、運用エンジニアの実情とやりがいを知ることができた。その他に印象深かったセッションは「オンプレミス Kubernetes のネットワーク」と「災害対策と今後」である。

4. その他、各自で JANOG・自分に対して思った感想・目標など

ネットワークにはその性質からあるネットワークをその他の大勢の人々のネットワークとつなげられることが必要とされ、そのために JANOG のようなコミュニティが培われてきたのだと感じた。また、ネットワークに関わる上での人同士のつながりの重要性を再認識した。技術だけでなく、そうしたつながりも大事にすることを今後の目標としたい。